

高山市バスケットボール協会 広報誌

TABBA  Takayama
Amateur
BasketBall
Association
高山市バスケットボール協会
2011-12号 (No.005)
編集・発行：高山市バスケットボール協会 広報委員会



平成23年8月11日～14日に、第49回男子・第41回女子全日本教員バスケットボール選手権大会（ぎふ清流国体バスケットボール競技 リハーサル大会）が行われました。来年行われる国体のリハーサルを兼ねており、役員や補助役員も一同に集まりました。約300人もの方が運営に携わり、ぎふ清流国体が間近に迫っていることを感じさせられました。試合が始まると、どのチームも勝利を目指し、白熱した試合を繰り広げていました。岐阜県チームは、地元チームとして大声援を受け、シュートが入るたびに歓声があがりました。選手や監督もその期待に応えようと必死にプレーしていました。残念ながら、男子ベスト16、女子ベスト8で敗退しましたが、大会を大いに盛り上げてくれました。また、東日本大震災により、一時は出場が危ぶまれた福島県チームでしたが、会場を一番沸かせてくれました。「がんばろー！福島」を合言葉に、いつも前向きに、そして最後まで諦めないプレーを見せてくれました。特に、準々決勝では、残り0.2秒で同点3ポイントシュートを決め、見ていた人たちに感動を与えてくれました。福島県チームは、決勝で敗れはしましたが、「来年の国体も、絶対に高山に来ます。そのために予選を勝ち抜いてきます。」と意欲を語ってくれた選手もいました。どこか温かさを感じる、高山らしい大会となりました。

試合結果や大会の様子に興味のある方は、教員大会ホームページ (<http://gifu.jabba-net.com/teacher/>) をご覧ください

高校競技の部

斐太高校男子バスケットボール部は、2000年の岐阜インターハイにおいて、前年度優勝校 新潟商業を破り、全国ベスト16に輝いた。その後も幾度か東海大会に出場したが、安定した成績を収めることは難しく、ここ数年、思うような結果を出せていない。

しかしながら、公立の進学校として、選手が集まりにくいこと、限られた練習時間などといった多くの制約のある中、部員たちは日々努力を重ねている。



斐太高校男子バスケットボール部は、2年生7名、1年生9名、マネージャー3名、総勢19名で活動しています。5月のインターハイ以降、新チームとなり、6ヶ月が経とうとしていますが、この期間僕たちは、「挨拶・返事・後始末」を大切に活動してきました。

挨拶や返事をしっかり行うことは、スポーツマンとして当然なことであり、人としての基本です。また、チーム全員で後始末をしっかりと行うことで、責任感を養い、チームとしてのまとまりを作り上げていると思います。

今年度のチーム目標は、先月行われたウィンターカップ県予選でのベスト8を上回る、県大会ベスト4、東海大会出場です。短い練習時間の中でより密度の濃い練習になるよう、ドリルの要点を全員が理解して取り組むこと、ドリルとドリルの切り替えを早くすること、

全員で声を掛け合うことを大切にしています。

現在のチームの課題は、技術の向上と選手一人一人の意識改革です。具体的には、技術の習得にどん欲に取り組む、必要な基礎体力をつけること、また先生に言われるのではなく、個々の選手が自発的に練習に取り組む姿勢を身につけることです。

“コートに入る以前のことを大切にすることで、オン・ザ・コートで最高のパフォーマンスができる” このことをモットーに、バスケットボールを通して、人としての在り方も学び、チーム力向上につなげたいと考えています。

平成23年度 斐太高校男子バスケットボール部主将 西本岳弘

ミニ競技の部



僕たち高山ミニバスケットボールクラブ男子は、現在約40名で活動しています。練習日は火、木、土、日の週4回（低学年は週2回）です。チームワークを大切に、日々練習に励んでいます。練習は厳しい時もあるけれど、できなかったことができるようになった時や、コーチにほめられた時、試合に勝った時はとてもうれしいです。

僕たちの目標は年末に行われる東海大会に出場することです。11月3日の県大会ブロック予選では優勝することができたので、決勝に向けて今は一生懸命練習しています。ここまで頑張ってきたのは多くの人の支えがあったからだと思うので、試合では精一杯力を発揮したいと思います。

キャプテン 奥田 庸

中学校競技の部

現在活動中のチームについて紹介します。

①チームの目標

②チームとして大切にしていること



日枝中学校男子

- ①県大会出場
- ②感謝の気持ちを忘れず、常に一生懸命頑張る！



日枝中学校女子

- ①県大会優勝
- ②最後まであきらめずに、一生懸命プレーすること



中山中学校男子

- ①県ベスト4
- ②礼儀を大切にすること、仲間を信じること、自分を鍛えること



中山中学校女子

- ①東海大会出場
- ②チームワークと声を出し続けること



松倉中学校男子

- ①東海大会出場
- ②練習中に声を出してチームの雰囲気を盛り上げることを頑張っています。



松倉中学校女子

- ①選手である前に生徒であれ
- ②『あいさつ』『声』『ルールボール』を大切にしています。



東山中学校男子

- ①県大会出場
- ②「一人はチームのために」チームの目標に向かって一人一人ができることを全力でやることを常に心がけています。



東山中学校女子

- ①県大会出場
- ②バスケット愛1. 基礎2. 自信 特に今は人任せにせず、攻める気持ちで戦うことと、どんな地味な仕事でもチームのために自分の役割を果たすこと



国府中学校男子

- ①地区大会出場
- ②「一意専心」バスケットに夢中になって、全員で声を出すこと、あきらめないで走る。



国府中学校女子

- ①地区大会出場そして一勝
- ②「大きな声で挨拶」「返事」「話を聞く」「ムードを盛り上げる声かけをする」「思いやり」を大事にして、チーム全員で勝てるよう頑張っています。



北稜中学校女子

- ①まず1勝
- ②つらい練習でも、チームで励ましの声をかけ合い、最後まであきらめないこと。



清見中学校

- ①県大会1勝&春季大会3位以内
- ②新人戦県大会に向けて、コーチの指導を素直に受け止める。練習や試合でも気持ちを強く持つ。練習は試合のように、試合は練習のように。

H23年度中体連を終えて（岐阜県大会準優勝…日枝中、3位…中山中）



日枝中学校 女子バスケットボール部キャプテン 佐藤志保

私が部活で頑張ってきたことは、声を出すことや笑顔で楽しくやること、最後まであきらめずにやることです。毎日の部活の練習は厳しく、つらいこともありました。でも、苦しい時こそ、全員で声を出し、笑顔でプレーしました。

私達の目標は、東海大会に出場し、1勝することでした。東海大会に出場することはできましたが、残念ながら1勝することはできず、私達の夏は終わりました。でも、今まで部活に本気で取り組んだ結果だったので、チーム全員悔いはありませんでした。部活動を通して、最後までやりぬくこと、何事にも一生懸命取り組むことの大切さを学びました。これからも、部活動で学んだことを大切にしていきたいです。



中山中学校 女子バスケットボール部キャプテン 村井理恵

私たち中山中学校女子バスケットボール部の3年生は、全員中学校からバスケットを始めました。初めての1年生市大会ではチーム中5位でした。そんな私たちがチームを引っ張っていくことになったとき、立てた目標が「県大会出場」でした。周りから見れば無理なことと思われたかもしれません。でも、私はこの仲間とならやれそうな気がしました。

私は、キャプテンとして何もできない自分が嫌いでした。周りの人に「キャプテンがんばりなよ。」と言われるとうれしい反面、そんな風にならざる資格は自分にあるのか?と思いました。そんなとき、支えてくれたのは仲間でした。

それぞれに想いをもちながら、頑張ってきたこの3年間。私たちは岐阜県で一番厳しい練習をした自信があります。うまく言葉では表せませんが、大切な仲間、素晴らしい先生、面倒見のいい先輩は、全て私の誇りです。

平成23年度（上半期）の大会結果

※高山市、飛騨地区大会の結果は、高山市バスケットボール協会ホームページに記載されています。

ミニ競技の部

◆岐阜県夏季大会 平成23年8月2日

男子の部

高山 57-21 Kストロング
高山 34-48 神戸
(Cブロック2位)

女子の部

高山 45-42 穂積
高山 25-56 大垣
(Cブロック2位)

女子の部

高山ドルフィンズ 64-38 揖斐
高山ドルフィンズ 52-39 関
(Aブロック優勝)

中学校競技の部

◆中体連県大会 平成23年8月1・2日

男子の部

1回戦 松倉 26-23 泉
2回戦 日枝 40-74 垂井北
(ベスト8)

女子の部

1回戦 日枝 81-65 神戸
2回戦 日枝 94-58 中部
準決勝 日枝 76-66 高田
決勝 日枝 60-86 大垣東
(準優勝)

女子の部

1回戦 中山 45-25 旭丘
2回戦 中山 72-59 伊奈波
準決勝 中山 40-64 大垣東
3決 中山 57-48 高田
(3位)

◆中体連東海大会 平成23年8月6日

女子の部

1回戦 日枝 57-100 桜(三重)

高校競技の部

◆岐阜県総合体育大会 平成23年5月29日

男子の部

1回戦 高山西 92-75 可児
2回戦 高山西 78-76 加茂
ブロック決勝 高山西 50-111 美濃加茂
(ベスト8)
1回戦 斐太 45-75 土岐商

女子の部

1回戦 高山西 101-35 大垣東
2回戦 高山西 98-36 富田
ブロック決勝 高山西 69-50 土岐商
決勝リーグ 高山西 49-76 岐阜女子
決勝リーグ 高山西 53-54 岐阜総合
決勝リーグ 高山西 58-84 長良
(第4位)

編集後記

来年は、いよいよ岐阜清流国体の年です。各県を代表するチームが、ここ高山の地で熱戦を繰り広げます。

たまたまのことですが、私の職場には、選手や監督として、過去に何度も国体に出場された方がみえます。その方が、「沖縄国体のときは、民泊だったけど、その宿の方々がお酒を準備してくれて、宿の方とも一緒に飲んだことを覚えている。沖縄の人と盛り上がって楽しかったし、大会自体も、地元の人たちが良くしてくれて、親しみのある国体だった。」と、国体の思い出を話してくれました。県を代表する選手や監督にとって、結果はとても重要なものです。しかし、結果を出した大会だけが、いつまでも心に残るわけではないようです。その土地の雰囲気や、人柄から感じる思い出は、いつまでも残るのかもしれませんが、高山を訪れた人たちの心に、いつまでも残る大会となることを願っています。(j.n)